

# One Year Later

## 人々の目線で探る「3.11」:生活、活動、そして可能性 —上智大学口述の歴史プロジェクト報告—

「3.11」は複合的な出来事であった。地震、津波、そして原発事故が立て続けに東日本を襲い、多くの人々の生活を破壊した。単なる物理的破壊ではない。歴史が紡ぎだしたコミュニティを巻き込み、かつ戦後「日本」が構築されたその基礎と構築原理を根底から覆した。「3.11」とはいったい何だったのか。大惨事から一年になろうとする今、三つの視点から3.11を振り返る。

日時:2012年2月12日(日) 13:00—19:30

場所:上智大学 四ッ谷キャンパス2号館5階 508教室

言語:日本語・英語

(質疑応答時通訳有り。発表時スライドは日英両言語にて併記)

### プログラム

ご挨拶(日&英) David H.Slater 教授 13:00-13:15

パネル1 <人々の生活>13:15-15:15  
「復興」・「意識変化」・「心のケア」・「仮設住宅」

パネル2<市民活動・社会運動>15:45-17:15  
「デモ活動」・「東京」・「ストリート」・「民主主義」

パネル3<フィルムセッション—海外事例>17:30-19:00  
「ドイツ」・「市民社会の課題」・「電力革命」

総括討論 Q&A 19:00-19:30

※(質疑応答時通訳有り interpreter provided)

◆主催:上智大学ヨーロッパ研究所、グローバルスタディーズ研究科、比較文化研究所

◆お問い合わせ:上智大学ヨーロッパ研究所 <e-mail:europa@sophia.ac.jp>

:グローバルスタディーズ研究科 <e-mail:gds-gs@sophia.ac.jp>

参加費・事前申し込みは不要です

# ONE YEAR LATER

## 人びとの目線でさぐる「3. 11」：生活、活動、 そして可能性

### 上智大学口述の歴史プロジェクト報告\*\*

「3. 11」は複合的な出来事であった。地震、津波、そして原発事故が立て続けに東日本を襲い、多くの人々の生活を破壊した。単なる物理的破壊ではない。歴史が紡ぎ出してきたコミュニティを巻き込み、かつ戦後「日本」が構築されたその基礎と構築原理を根底から覆した。「3. 11」とはいったい何だったのか。大惨事から一年になろうとする今、三つの視点から3. 11を振り返る。

第一の視点は人びとの生活である。3. 11は多くの人々の日常に異変をもたらした。呆然に始まり、悲嘆や苦悩、とまどいいやさまよいに人びと追いやった。そして多くの人々が、今この瞬間も、同じ境遇にいる。ともすれば埋もれて消えてしまう人びとの声に耳を傾け、3. 11の意味を紡ぎ出す作業をおこなわなければならない。

第二の視点は人びとの反応である。3. 11が引き起こしたことの中に、社会のありようを問い直す人々の訴えがある。また、人びとの解釈とそれをもとにした活動がある。何が日本社会の問題なのか、これからの日本社会の舵をどのように切ればよいのか。これらの問いにたいして答えを探る人びとの目線を、人びとの活動を通して理解したい。

第三の視点は可能性である。3. 11、とりわけ「原子力発電」は難題である。社会のほつれをどう解決していくのか。その解決の可能性を、海外の事例に求める。ここでは、ドイツの市民の動きから学び、考え、省察を試みたい。

日時： 2012年2月12日（日） 13:00-19:00

場所： 上智大学四ッ谷キャンパス 2号館5階 508教室

報告使用言語： 日本語・英語（質疑応答時通訳有り。発表時スライドは日英両言語にて併記。）

参加費： 無料

主催： 上智大学ヨーロッパ研究所、グローバル・スタディーズ研究科、比較文化研究所、

# プログラム

1:00-1:15 David H. Slater, ご挨拶, Opening Speech (日&英)

## <パネル1: Disaster Survival—人びとの生活>

1:15-1:30 David H. Slater, 「危機に直面する人びとの声とその重さ The Importance of Voice in Times of Crisis: An Overview」(英)

1:30-1:45 John Lichten, 「JETプログラム教師と震災からの復興: コミュニティの一員か、海外からの厄介者か Teachers of the JET Program and Earthquake Recovery: Members of the Community, or Foreign Nuisance?」(英)

1:45-2:00 村瀬りさ, 「3.11を通して見る福島原発の意識変化 Cognitive Change in Fukushima Residents through the Lens of 3.11」(日)

2:00-2:15 Lenka Vyletalova, 「コミュニティの心のケアー Caring for Kokoro in the Community」(英)

2:15-2:30 白水杏奈, 小山真理, 「被災者にとっての復興とは—陸前高田の仮設住宅から What is recovery for survivors?」(日)

2:30-2:45 Patrick Clarke, Cecilia Fujishima, Michael de chuyter, 「仮設住宅: リーダーシップとその将来 Temporary Housing: Leadership and the Future」(英)

2:45-3:15 質問と討論 Q&A (通訳有り interpreter provided)

(休憩: 3:15-3:45)

## <パネル2: 市民活動・社会運動—人びとの反応>

3:45-4:00 野宮大志郎, 「3.11以降の市民活動・社会運動: 概括 Civil Activities and Social Movements after 3.11: An Overview」(日)

4:00-4:15 Julian Hopkins and 龍野洋介, 「なぜデモに参加するのか Reasons for participating in a demonstration」(日)

4:15-4:30 Isabel Pichler, 「東京—ストリートで Tokyo - In the streets」(日)

4:30-4:45 Love Kinstrand, 「民主主義の空間—震災後の脱原発運動における欲求と恐怖の物語 Spaces of democracy: narratives of fear and desire in the anti-nuclear movement after 3/11」(英)

4:45-5:15 質問と討論 Q&A (通訳有り interpreter provided)

(休憩: 5:15-5:30)

<パネル3： フィルムセッションー海外に見る可能性>

- 5:30-5:45 木村護郎クリストフ&ドイツ社会研究ゼミ有志,  
「We choose our electricity with our own decision: A German Experience  
自分の電力は自分で選ぶードイツの経験から」(日)
- 5:45-7:00 Documentary film showing: Thoughts of Shonau ~ Story of German  
citizens who inspired the electricity revolution 映画上映: ドキュメン  
タリー映画『シェーナウの想い Das Schönauer Gefühl』~電力革命をおこし  
た市民の話(独語 日本語字幕つき)\*  
\*自ら電力供給会社をつくり、原発を使う電力会社から「独立」したドイツ  
の事例をてがかりに、3.11後の日本における市民社会の課題を考えたい。  
協力: 自然エネルギー社会をめざすネットワーク
- 7:00-7:30 総括討論 Q&A (通訳有り interpreter provided)

以上